

第9回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日 時：令和元年10月16日 10:00～11:30

場 所：県庁 4階 特別会議室

1 事務局・可児市長説明

- ・「都市公園活性化基本戦略による取組みの成果と今後の展開方針」及び「花フェスタ記念公園の再整備（案）」について、事務局が説明
- ・花フェスタ記念公園内で設置を進めている「麒麟がくる」大河ドラマ館について、可児市長が説明

2 意見交換

○意見

- ・収益がどのくらいあがっているのか、集客数がどれくらい上がったのかの数字だけに目を奪われ、手段と目的が逆転してしまう。花フェスタ記念公園においても、何のために整備するのかという点で議論する必要がある。
- ・岐阜県の取組みは、県営公園という大きな資産の中で色々なことをやった最先端のものではないか。人の居場所という意味で使う側の人は何が楽しいのか、どうやって人が集まってくるのか、を見つけ、経済が伴う仕組みを作っていくことが大切ではないか。岐阜県は、我々がやりたかった実験をたくさんやっているのもっと続けてほしい。
- ・変動料金の話だが、足利フラワーパークは日替わりで料金が変わっている。公共施設だと条例に縛られるので難しいが是非やってもらいたい。
- ・名称変更の話で、花フェスタ記念公園の場合、英語で「ミュージアム」、「世界有数のバラ園」が良いのではないか。品揃えも含めて1級品だと伝わるようにしてほしい。
- ・料金の変動だけでなく、有料区域、無料区域の考え方や開園時間も含めたトータルで柔軟な料金体系を考えていくべき。
- ・時間を上手く使って、かつ、充実感があるとよいので、見るだけではなく、体験性を加えるような仕組みをどんどん取り入れていった方がいい。
- ・花フェスタ記念公園は、無料にするのはもったいないのではないか。少しでも稼げるところは稼ぎ、里山公園よりも本物志向が強い公園だと思うので、シーズン料金やカレンダー料金など、柔軟な料金体系を導入して、園内でお金を落としてもらおう仕掛けづくりを進めてはどうか。
- ・他に負けないものを作り、それに合わせた料金体系でいいのではないか。また、施設を有効に活用するためには、園内の移動手段を工夫してほしい。
- ・ハードとソフトは同時に考えていかなければいけない。花フェスタ記念公園のプロモーションの仕組みとして、海外や全国から観光客が来ることは大事だが、県民がテーマや希望を持ち、環境意識を高め、モチベーションを持って参加できる仕組みづくりなど、体験型観光につながっていくプランニングが必要。

- 花のタワーで、上に登るという行為を得て何かを体験するということが必要ではないか。例えば、タワーの下に池があるので、水中花みたいなものを植えることで、地面では見られないものができるのではないか。
- 閑散期とされている1月から3月までは、一番澄み渡っている時期である。展望台に登らないとできない体験として、空の散歩道をガラス張りで作ってみてもよい。
- インターチェンジを降りて、花フェスタがあるという印象はない。例えば、バラが周りにきちっと咲いているとか、道路が花で飾られている印象はないので、可児市とよく連携して、ゲートウェイの盛り上げが重要ではないか。
- 懇談会の名称は、このプロジェクトそのものを売り出すような名前に変えて、売って行ってはどうか。世界に通じるような名前を考えて、プロジェクトを外に売り出す。